

2022年3月10日
一般社団法人 Jミルク

給食のない日も、牛乳で栄養バランスを！ 関係者と連携しプロジェクトを立ち上げます

Jミルクは、酪農乳業界が学校給食関係者の方々と連携し、子どもたちの栄養バランス向上への積極的な貢献を目指す「給食のない日に牛乳飲もう！プロジェクト（仮称）」を立ち上げます。

酪農乳業関係者が、学校給食の関係者（栄養士・管理栄養士、栄養教諭や保護者ら）と連携しながら、子どもたち（主に小中学生）が学校の休日や春休み・冬休みなど、給食のない日にも栄養バランスを整える上で牛乳を摂取することの重要性を訴求していく取り組みです。

今後、以下のような活動を、関係者とも調整しながら進めていきます。

- 酪農乳業関係者による、学校が休みの日の「子どもの栄養問題」と牛乳摂取の必要性について、全国の自治体や栄養教諭などの学校関係者らと連携した、家庭や地域に向けた啓発活動・食育活動など
- 子どもの貧困問題などへの社会貢献活動として、地域の子ども食堂やフードバンクなどと連携した牛乳提供の実施などの取り組み

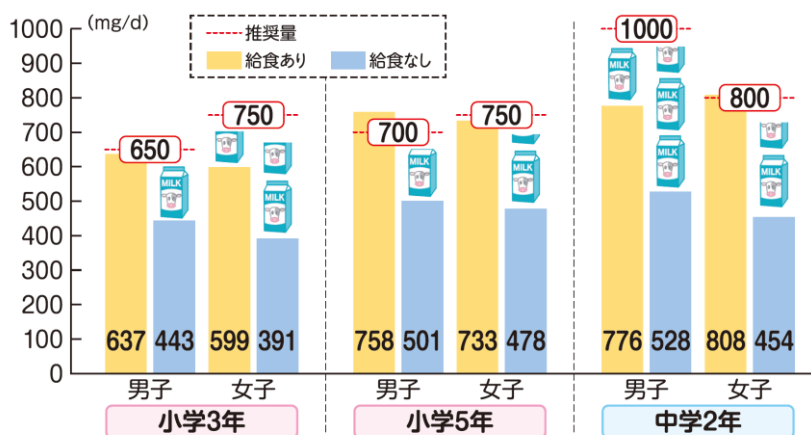


手始めに「“給食のない日”の牛乳、子どもは『飲む』『飲まない』ホントはどっち？」と題した学校給食関係者向けのリーフレット（右上）を制作しました。Jミルクのホームページ（https://www.j-milk.jp/knowledge/nutrition/leaf_35.html）で公開しており、関係者に活用していただくだけでなく、広く消費者の方々にもお読みいただけます。

【プロジェクトを始める背景】

「学校給食がない日には、給食のある日に比べて、子どものカルシウム摂取量が不足している」との調査結果が示されています。それによると、給食のある日は国の1日当たり推奨量に近いのですが、ない日には大きく減って、およそ200～470mgも不足しています。

●給食のある日とない日の1日あたりのカルシウム摂取量(中央値)



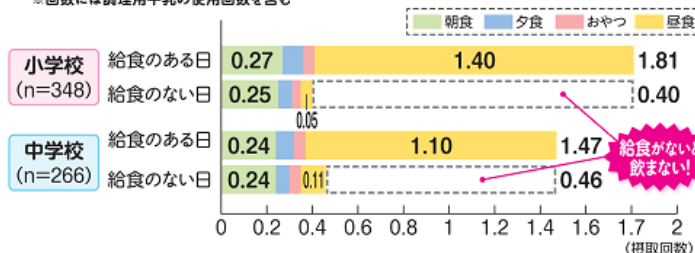
Public Health Nutrition: 20(9),1523-1533より作成

(牛乳 200mL = カルシウム約 227mg)

上記は、給食のない日の「牛乳の『ある』『なし』」が、そのままカルシウム摂取に影響していると考えられます。別の調査では、1日の牛乳の摂取回数は、小・中学生ともに昼食での摂取の有無が大きく関係していることが分かっています。

●給食がある日とない日の牛乳を飲んだ回数(平均)

※回数には調理用牛乳の使用回数を含む



亀ヶ谷昭子ら 栄養教諭食育研究会誌第4号(2020),P.15-24より作成

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人 Jミルク
コミュニケーショングループ 林
東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5階
電話：03-5577-7494